

令和5年度 自己評価表（校務分掌部・学部）

※評価基準：A＝達成できた、B＝おおむね達成できた、C＝ある程度達成できたが改善が必要、D＝達成できなかった

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
教務部	2②ICTを活用した授業、校務処理の推進	・ICTを活用した校務処理の効率化、可視化を図る。	・校務支援システムにおける行事予定表の有効的活用の検証と実践を行う。 ・職務内容に応じて、校務支援システムの管理者権限の分散化を図る。	89%	98%	B	成果・課題	【成果】 ・SchoolWareを利用して行事等実施計画を計画日に添付した。各学部、分掌部に確定した文書を保存するフォルダを示したことで、保存先が明確になった。 ・校務支援システム担当等一覧表とスケジュール、マニュアルを添付したExcelシートを作成した。権限分与されたため、役割分担が明確になった。 【課題】 ・SchoolWareにまだ馴染みがないため、活用するまでに至っていないように感じる。※必要な教員だけが利用している。 ・権限がある方がシステムを活用しているが、全体的に活用できていないように感じる。
							改善策	・今年度はExcelデータを利用して担任の先生から学籍に関するデータを確認し、教務がシステムに入力していた。次年度は「学籍基礎データ」は変更され次第、担任が直接入力することで検討する。 ・保護者等へ直接的に取組ができなかったので、HPの行事予定を「保護者向け」に配信できるよう検討する。
学習指導部	1①新学習指導要領に対応した指導計画の作成、実施	・新学習指導要領に対応した年間や単元の指導計画を活用し、授業改善を目指す。 ・主体的、対話的で深い学びを意識した授業の取り組みを目指す。	・年間指導計画、単元指導計画の様式の作成をする。また、それを活用して授業を実施する。 ・個別的教育支援計画の作成と管理を行う。（3観点での評価）	94%	92%	A	成果・課題	【成果】 ・年間や単元の指導計画を活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を実施することができた。 【課題】 ・個別的教育支援計画が校務支援システムでの作成になったため、Excelのように評価項目を記入できず3観点での評価の確認がしにくくなった。また、指導計画の表記の仕方が統一されていない部分があるため、検討が必要である。
							改善策	・説明会を行ったり、記入例を提示したりすることで、3観点を意識した個別的教育支援計画の作成を促し、定着を図る。 ・指導計画の統一されていない部分の書き方を検討をする。
児童生徒指導部	3①地域社会に開かれた教育課程を目指すとともに、情報発信の工夫・徹底	・各種訓練やマニュアル、いじめ防止等に関する情報発信の充実を図る。	・ホームページを活用した、各種訓練やいじめ防止等に関する情報の発信 ・各種マニュアルの見直し、周知 ・いじめ防止に関するアンケートの実施、結果の周知	76%	97%	B	成果・課題	・各種訓練やいじめ対応に関してホームページに掲載することや、いじめ防止に関するアンケートの結果について保護者等に配付すること等に取り組み、情報発信の充実に努めることができた。情報発信の仕方について検討が必要である。
							改善策	・いじめに関する本校の取り組みを周知する。ホームページや保護者等宛て通知、一斉メール等を活用し、分かりやすく情報を発信する。
地域支援部	3①地域社会に開かれた教育課程を目指すとともに、情報発信の工夫・徹底	・関係機関との情報交換や地域のニーズを踏まえた情報発信の工夫と充実を図る。	・特別支援教育連絡会の主催開催 ・ボランティアスクールの開催 ・地域の要請に応えた研修内容や支援を検討・実施	86%	100%	B	成果・課題	・連絡会の主催開催は、他の学校にはないものなので、教育委員会と連携が取りやすくなる。 ・ボランティアスクールは、充実して参加者のほとんどが、ボランティア登録をしていた。 ・地域の要請に応じて研修会や巡回相談ができた。
							改善策	・地域支援の業務は、教職員や保護者にはわかりにくいものになっている。ホームページを工夫することで、知ることができるのか。

健康指導部	2①安全教育の推進と保護者・地域との連携による感染症、防災対策の徹底	・熱中症・感染症対策を適切に行い、安心・安全な学びの環境を整える。 ・医療的ケア児の活動範囲を広げ、学校生活を充実させる。	・状況に応じた対策の具体的な提示と、教員・保護者へ確実な周知。 ・県の指針に沿って、関係する職員と連携し、医療的ケアを安全に実施する。	96%	98%	B	成果・課題	・熱中症の危険が高まる時期に暑さ指数を掲示したことで、児童生徒及び教員の意識づけになった。感染対策については、情勢に応じて実施した。地域等で流行の兆しが見られた際は保護者に一斉メールなどで知らせ周知していく。 ・特例乗車申請や校外学習への学校看護師付添いにより、医療的ケア児が保護者と離れて活動できる時間が増えたが、保護者同伴でないと参加できない行事がある。ヒヤリハットやインシデントがあった際には、マニュアルに沿って対応し、安全に実施できた。
				A	A		改善策	・今後、さらに医療的ケア児の活動範囲を広げていけるよう、県に要望していく。
進路指導部	3①地域社会に開かれた教育課程を目指すとともに、情報発信の工夫・徹底	・卒業後の自立に向け、本校の進路指導や保護者が知りたい情報を、分かりやすく発信する。	・保護者が知りたい情報内容についての調査、把握。 ・分かりやすさや見やすさを工夫した、ホームページ、進路だよりの作成。 ・保護者向けの施設説明会、研修会などの実施方法の見直し。	83%	95%	B	成果・課題	・進路に関するアンケートで上がってきた保護者が知りたい内容について、進路だよりでコーナーを設けて回答した。また、読みやすい紙面作りのため様式の見直しも行った。 ・福祉事業所ガイドブックを2年ぶりに作成し、ホームページに掲載した。 ・情報提供の工夫を行っているが、文字による情報発信が中心で、保護者の分かりやすさに課題がある。
				B	A		改善策	・保護者に直接話をすることで、情報を伝えられる機会の設定を検討する。
	関連する重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者アンケート	教職員アンケート	評価A～D	反省と課題及び改善策	
渉外部	3②関係機関と連携し、児童生徒の豊かな生活を支える取組の推進	・保護者や同窓会、地域のPTA関係団体との連携を深める。	・HP等を活用したPTA活動についての情報提供 ・保護者が参加しやすい行事日時の設定、参加方法の工夫 ・特教振後事務局として保護者・他校PTAとの協力体制作り ・同窓会主体での活動の支援	93%	100%		成果・課題	・コロナで3年間中止となっていた行事もあったが、上の学年の保護者がコロナ前のやり方を下の学年の保護者に伝えながら協力して進めるなど、PTAや同窓会等と連携してスムーズに実施することができた。 ・行事の実施や役員の人数や選出方法など要不要を見極めて、現在の保護者に合わせたやりかたに変えていく必要が出てきている。
				A	A		改善策	・行事の精選や活動内容の検討、組織の見直しなど負担軽減の方向で計画を進めていくようにする。
特別活動部	3②関係機関と連携し、児童生徒の豊かな生活を支える取組の推進	・児童生徒が活動や役割を理解し主体的に活動することで、学習の成果を十分に発揮して成就感を味わえるようにする。	・児童生徒の学習状況、新型コロナウイルス感染症流行状況緩和を踏まえ、活動のもち方や関係機関との連携を工夫したり、活動の見直し、精選を図ったりする。	96%	95%	B	成果・課題	・新型コロナウイルス感染症5類移行後の対応を各係で検討し、各行事・活動を遂行することができた。児童生徒も意欲的に学習に取り組み、学習の成果を発揮することができた。 ・次年度の運動会の実施方法など、活動の見直しや精選についての検討ができた ・緑地運動公園駐車場の利用状況により、行事の計画を変更した。
				A	A		改善策	・引き続き、行事の見直しや精選を行う。 ・感染症の流行状況、緑地駐車場の利用状況に応じた柔軟な計画が必要。

情報部	2②ICTを活用した授業、校務処理の推進	GIGAタブレットおよび校務支援システムの機能を効果的に活用したり、データベースを構築したりすることなどを通してデジタル化の推進を図る。	・Formsの効果的な利活用について ・Teamsの利活用について ・ZoomやTeams、Youtubeを使ったオンラインの授業の充実 ・校務支援システムの機能の理解と活用 ・教材データベースの構築 ・学校ホームページの充実	88%	99%	B	成果・課題	・校内研修を通して教材データベースについて使い方を周知することができた。少しずつデータが集まってきているが、まだまだ活用するためにはデータが少ない。
				B	A		改善策	今後もデータの収集を継続する。年度や学期、月ごとに呼びかけ、作成した教材等のデータを保存してもらえようとする。また、従来の教材データの中身を教材データベース内に移動し、教材の保存場所を一元化することでデータの充実を図る。
小学部	1②主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善	自立活動の指導において、個々の実態把握、ねらいを明確にした具体的な指導の実践や評価を行い、授業改善に努める。	・自立活動支援シートの効果的な作成と活用。 ・自立活動指導内容一覧表のさらなる充実 ・自立活動指導内容一覧表の活用に向けた検討	97%	92%	B	成果・課題	・グループでの事例検討により、実態把握や課題の整理、今後の指導などについて、複数の視点での検討を進めることができた。 - また、自立活動の指導を振り返りながら、6区分27項目に着目した指導内容を一覧表にまとめることができた。 ・研修以外での一覧表の活用したり、個別指導の時間を十分に確保したりすることが難しかった。
				A	A		改善策	・自立活動支援シートや指導内容一覧表を参考にしたり、情報を共有したりしながら、各教科等の授業や学校生活全般においても自立活動の指導の視点をもって個別指導の授業を展開したり、個別に関わったりしていく。
中学部	1②主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善	・作業学習における、個に応じた評価の在り方と指導の反省を一体化し、授業改善を図る。	・次時への意欲を高めるような評価表の作成 ・個に応じた生徒の自己評価方法とその活用の仕方を検討、実践 ・評価に基づいた授業改善の実施	95%	93%	A	成果・課題	・各作業班において、モニターで全体に目標や評価を提示したり、担当教員と話し合いながら個人で振り返りを行ったりしたことで、目標や評価を意識する生徒が増えてきた。また、個人の今の課題が明確になったことで、作業内容の変更や教材の改善につながった。 ・作業班によっては、技術面での目標を立てるのが難しかったり、日誌の記入に時間がかかったり、評価の入力を待てなかったりしてしまうことがある。
				A	A		改善策	・生徒、教員にとって書きやすく、分かりやすい作業日誌の様式を検討していく。
高等部	1②主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善	・新学習指導要領に沿って作成した指導計画に基づいて授業を実践する中で、生徒の主体的な活動を引き出し、自己肯定感を高められるような指導方法や評価の仕方とその活用について検討する。	・年間指導計画に基づいた授業実践 ・発問の工夫 ・生徒の活動を促すようなワークシートや指示の出し方の工夫 ・作業日誌の工夫 ・評価(自己・他者)の推移の見える化	93%	92%	A	成果・課題	・作業日誌の工夫による授業の振り返りや仕事や役割への取り組みにより、積極性や自己の次の課題や目標を見出す姿勢に向上が見られるようになった。(成果) ・学校課題研究との関連により、作業学習を中心に取り組むにとどまった。(課題)
				A	A		改善策	・他の教科等にも今年度の取り組みを生かして、授業を展開できるようにすると良いと考える。

	関連する 重点目標	取組目標	具体的な取組	保護者 アンケート	教職員 アンケート	評価 A～D	反省と課題及び改善策	
働き方 改革 委員会	4 ②働き方改革 の継続、ワーク ライフバランス の推進と教職員の 保健管理の充実	・業務改善と働きやすい職場環境作 りに努める。	・勤務時間の適正化 ・意識改革 ・業務改善（ICTの活用など） ・学校運営体制の充実 ・教職員間のコミュニケーションの円滑化と 互いに支え合う雰囲気の醸成		B	B	成果・課題	・継続した取り組みにより、個々の意識は高まっている。 ・ICTの活用が浸透してきている。半面、データの共有伝達事項について個人のスキルの差等から課題がある。 ・少しずつ対面での研修等が増え、コミュニケーションをとる機会が増えてきている。 ・職務分析の「見える化」「役割分担の明確化」で業務内容、分担のバランスについて検討を始めることができた。
							改善策	・情報端末活用法の研修。 ・職務分担の明確化の推進とバランスの検討、改善。 ・取り組みの継続。